

【第三種郵便物認可】

東京都と三宅村などは三宅島をキャンパスに見立てて島の自然や文化について考える「三宅島大学」を2012年度に本格的に始める。島民や観光客らを対象に島の動植物や文化について講座を開いたり、地元の食材を使った名物を開発したりする。島の活性化につなげるとともに、島外からの観光客の誘致につなげる。

アーティストの日比野克彦氏や大学教授、島の住民らが講師を務める。11年9月に試験的に開校し、現在も約300人の「学生」がいる。島民の80歳代の女性が現在では

東京

「三宅島大学」を本格開校

都と村など来年度に



島民も参加して行われた「三宅島大学」の開校式（東京都三宅村）

開講を目標 記念の式典を行うほか、島の内外 証書を贈る予定だ。ほとんどの講座は受講無料。手数料500円で発行する。魚、竹芝（東京・港）を結び、島の食材を使った新船の運賃が2割引きになる。三宅島では2000年、島の噴火で全島民が4年、島外へ避難した。現状も観光客は大きく減ったままに

島の自然や文化を伝える

同大学の企画をしている東京都歴史文化財団（同・墨田）は「埋もれている文化を掘り起こすことで、島の魅力を掘り起こしたい」と期待している。

ほとんど使われなくなっている。原則的に1講座は1日、文化財団（同・墨田）は、クッキー作りやダンス教室を開くなど、これ単位を与える。124単位の条件を満たすまで17講座を行った。12年度は50講座程度の